

第137回:愛国心は最後の砦

あらゆる歴史は、それが当代の証拠によって支持されない限りロマンスである。これ18世紀英国の碩学サミュエル・ジョンソンの格言である。こないだ中国政府が発表した「釣魚島は中国固有の領土」白書という文書を読んだとき思い出したのである。中国の主張は「尖閣諸島は明朝時代に中国の版図に組み入れたものである。一時日清戦争で台湾と共に日本に掠め取られた時代もあったが、ポツダム宣言で台湾といっしょに中国に返還されたものである」てなことらしい。牽強附会のロジックにはさして驚かないが、大国の公式文書が罵詈雑言によって構成されているのは珍しい。中国の民度を証明する珍百景資料として早速 PC に保存させて頂いた。

都合の良い所だけを宣伝し、都合の悪いところに類かむりするのは、どこの国も一緒だが、尖閣問題に限って言えば、国連が近海に石油資源がありそうだという情報を発信するまで、中国が80年近くこの一帯を無視してきたこと、尖閣諸島の各島に名前すら付けてこなかったこと、中国人が住んだ形跡が全く見当たらない無人島であったこと等々基本的な事実には全く触れておらず、自己チューというか、もうすこしソフトな表現を使えばサミュエル・ジョンソンが云うところのロマンスである。

ひとつだけ面白い個所があるので、人民網を引用しよう。「早くも明朝の初期に、東南沿海の倭寇を防ぐために、中国は釣魚島を防御地区に組み入れていた。1561年(明・嘉靖40年)、明朝の東南沿海駐屯軍最高統帥・胡宗憲が主宰し、鄭若曾が編纂した『籌海図編』では釣魚島などの島嶼を「沿海山沙図」に編入し、明朝の海防範囲に組み入れたことがはっきりしている。—文章[ママ]」。 (人民日報による日本語訳で筆者の訳文ではないある)

明の時代には、東南沿海駐屯軍最高統帥の胡宗憲なる人物が、倭寇の襲来に備えて福建地方の警備に当たっていたようで、ウィキペディアによると胡宗憲(生年不詳~1565年3月)、明代の武将、徽州績溪県の生まれとある。科挙試験に合格し、後に浙直総督となり、中国沿岸部で略奪や密貿易を行っていた倭寇の討伐を行った武将だが、最期は倭寇との癒着関係が疑われて逮捕され、獄中で自殺したという。

胡宗憲の生まれ故郷はいまの安徽省は宣城市績溪县、これでピンと来た人は共産党検定2級クラスの水準だ。正解は胡錦濤の出身地、つまり胡宗憲提督は胡錦濤一族のご先祖様なのである。中国人は出身地を大事にする。胡錦濤が生まれたのは江蘇省の泰州市だが、彼の公式履歴書には出身地が安徽省績溪と記されてある。遠く胡錦濤の先祖をとぶらへば、東晋時代(4-5世紀)散騎常侍の胡焱に始まり、明朝の胡宗憲提督を経て、現代の胡錦濤皇帝に到っている。尖閣列島問題で温厚な胡錦濤が意固地になっているのはご先祖様の名誉に関わることだからかもしれない。

サミュエル・ジョンソンの格言をもう一つ紹介する。尖閣諸島に端を発する反日デモと反日暴動にピッタリ当てはまる警句で、原文は Patriotism is the last refuge of a scoundrel、いろいろな日本語訳があるので、「愛国心はならずものの最後の砦」、「愛国心は悪党の最後の拠り所」、「愛国心は卑怯者の最後の隠れ家」。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

何れも名訳であり甲乙つけがたい。どれがいまの中国に相応しい翻訳文かいちど胡錦濤に聞いてみたいものだ。バカは中国人も日本人もいっしょであり、自分の国では誰からも相手にしてもらえず、能力もないものだから誇れるものは、その国の国民であると言う事実だけである。そんな自分の頭で考える能力がない人が奔るのが愛国主義であり、最後の砦なのである。ジョンソン老はそう云いたかったのだろう。400年前の箴言とは思えない現代性を含んだ言葉である。

ところで24日、韓国の金星煥外交通商相と、中国の楊潔篪外相が訪問中の米ニューヨークで会談し、「国連の場で正しい歴史を世界に広く知らせる必要性で一致した」と述べ、一連の歴史問題で韓中両国が協力して働きかけを強める方針で合意したことを明らかにした。日本に対する韓中包囲網を築こうという方針だろうが、この両国も決して一枚岩ではない。日本人が中国人や朝鮮人から嫌われているのは事実だが、中国人の朝鮮人嫌いは徹底している。

いま経営不振のシャープと台湾の鴻海(ホンハイ)精密工業との資本提携の行方が注目されているが、鴻海の郭台銘会長は立志伝中の人物で、ときに彼の齒に衣をきせぬ発言が物議をかもしることがある。台湾メディアによると郭会長は今年6月の株主総会でシャープとの提携に触れ、「日本人は嫌い」と口に出しても絶対に後から刺してこないが「高麗棒子は違う」と発言したと云う。日本企業だったら一発で社長のクビが飛ぶ暴言だ。高麗とは朝鮮韓国を指し、棒子とは棒きれのことを指すが、この二つの単語が合体したら大変だ。高麗棒子とは「ちゃんころ」や「小日本」に勝るとも劣らぬ蔑称(朝鮮人に対する)である。そもそもの起源は満州国時代に遡る。当時満洲国は日本が実質統治しており、現地で数多くの日本人警察官が働いていた。そのなかで日本人の部下を勤めたのが朝鮮人で、彼らの多くが拳銃所持を許されなかったため洗濯物を叩いて洗う棒きれ(棒子)を振り回し、日本人警察官の走狗となっていたらしい。当時現地人から一番嫌われていたのが日本人ではなく朝鮮人の羅卒で、当時の蔑称がそのまま残っているのである。中国人の韓国人に対する蔑称のルーツが戦前の日本にある手前、韓国人には本当に申し訳ないことである。

その韓中両国だが、そのあいだに北朝鮮と云う一種の緩衝地帯がある関係で、国境問題は存在しない。しかしながら北朝鮮があのまま数十年も持つとは考えられず、朝鮮半島統一は時間の問題である。理論的には北が南を統一することも可能だが、予想は逆だ。中朝の国境地帯をちよろちよろ流れる川の向こう側に、ある日突然米韓同盟の数個師団が出現すれば領土問題どころではすまないだろう。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成24年9月26日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本^の常識は中国^の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075%(税込み)(約定代金が260,869円以下の場合、3,150円(税込み))の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額)に対して最大0.8400%(税込み)の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込(一部の投資信託は換金)手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840%(税込み)の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20%(税込み)(約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円(税込み))の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。